

事故事例集



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

平成27年1月

はじめに

国立青少年教育振興機構が平成22年に発表した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」の結果によると、子供の頃の体験が豊富な大人ほど、「意欲・関心」「規範意識」「人間関係能力」が高くなることが報告されています。しかし、年代が若くなるほど、子供の頃の自然体験や友達との遊びが減少傾向にあるという実態が明らかとなりました。

このような状況の下、青少年教育施設には、子供たちの自然体験等の体験活動を意図的・計画的に実施するため、安全に配慮したプログラムの企画と安全確保に留意した体験活動の機会を多くの子供たちに提供することが求められています。

しかし、残念なことに平成26年9月8日、岩手県の豊沢川で保育園の行事中に手作りいかだ3つが転覆し園児ら27人が投げ出され、うち園児1人が亡くなるという事故が発生しました。この事故では、園児達に救命胴衣を着用せずに川下りをしていたことが分かっています。

また、10月24日、秋田県本山山山頂付近の登山道で落石があり、学校行事で登山に訪れていた中学1年の女子生徒が約5m下に滑り落ち、頭の骨が折れるという事故が発生しました。

子供たちの体験活動を進める上で、事故の防止に努力することは、施設管理者に課せられた義務です。

当機構では国立青少年交流の家及び同自然の家において、平成25年度に発生した利用者の傷病件数を活動内容別及び傷病別に集計し、比較いたしました。

併せて平成24年度から平成25年度までに発生した傷病事例の中から、危険度が高い、又は発生頻度が高い事故事例を17件選出し、その概要、原因及び改善策についてとりまとめました。

本事例集が青少年教育施設の管理運営に携わる方々や子供たちの引率指導に当たる方々の参考となれば幸いです。

目 次

はじめに	1
------	---

I. 傷病状況

1. 施設屋内における傷病状況

(1) 活動内容別傷病件数	6
(2) 傷病別件数	8

2. 施設屋外における傷病状況

(1) 活動内容別傷病件数	14
(2) 傷病別件数	16

II. 事例紹介【対象年度：平成24年度、平成25年度】

1. 屋内活動での事故

ベッドからの転落時に後頭部を強打及び裂傷	24
2段ベッドで急に立ち上がり後頭部を強打	25
昼食後に全身のかゆみ	26
夕食後に腹痛・下痢・嘔吐の症状	27
剣道の合同練習会で熱中症を発症	28
椅子取りゲームでパイプ椅子に指を挟み裂傷	29
避難はしごに上り着地の際に手首を骨折	30
正面玄関の路面の凍結による転倒で頸椎を損傷	31

2. 屋外活動での事故

薪割り中になたで手を切る	3 4
野外炊事中の火傷	3 5
フィールドアスレチックでの活動中に熱中症を発症	3 6
企業研修の村内ウォークラリーで体調を崩す人が続出	3 7
源流探検コースで蜂刺され	3 8
オリエンテーリング中にマウンテンバイクで転倒	3 9
海での活動中にプランクトンに刺される	4 0
転倒したそりに衝突し眼球を打撲	4 1
オリエンテーリング中での迷子	4 2

Ⅲ. 資料

平成 2 5 年度 傷病発生状況一覧表	4 4
-------------------------------	-----

I . 傷病狀況

本データは、国立青少年教育振興機構27施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）を対象に、平成25年度に発生した傷病について、まとめたものであり、各施設の保健室利用数、医療機関の利用数及び保健カード（利用者が健康面に関する相談等をした際に記入）をもとに集計した。

当機構では、平成25年度の国立オリンピック記念青少年総合センターを除いた総利用者数は、315万人であり、平成25年度に発生した総傷病件数は3,845件であった。

1. 施設屋内における傷病状況

(1) 活動内容別傷病件数

① 傷病件数の比較

平成25年度の施設屋内における傷病件数は2,378件であった。傷病と活動内容について「不明・その他」の項目を除いた1,698件の活動内容別の傷病件数では、就寝時間が372件(21.9%)、研修室活動が364件(21.4%)、スポーツ活動が261件(15.4%)、自由時間が213件(12.5%)となっており、上位4種類の活動内容が、全体の71.2%を占めている(図1)。

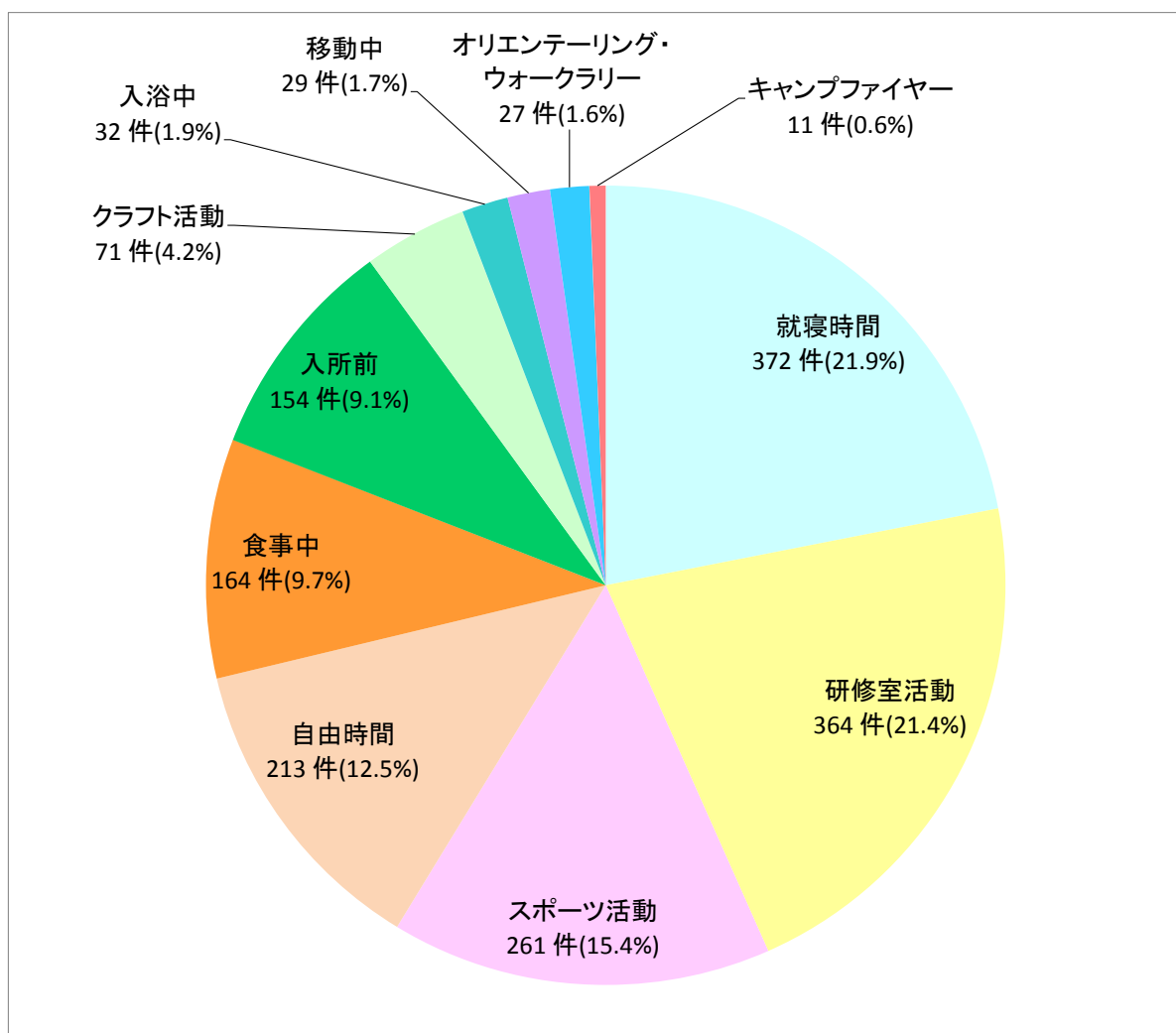


図1. 施設屋内における活動内容別傷病件数

② 主要な活動内容における傷病件数

傷病件数が多かった上位4種類の活動内容について、傷病の内訳を詳細に分類し集計した(表1)。

就寝時間、研修室活動、自由時間では、90%以上が内科系の傷病であり、特に発熱感冒はそれぞれ30%を超えている。その他、頭痛、嘔吐、腹痛(胃炎等)も多く発生している。また、外科系では、捻挫打撲の占める割合が大きい。

一方、スポーツ活動では、捻挫打撲、発熱感冒、頭痛の順に多発している。また、切り傷や突き指といった外科系の傷病も多く発生している。

表1. 施設屋内での主要な活動内容における傷病件数

就寝時間

外科系	件数	内科系	件数
捻挫打撲	8件	発熱感冒	135件
鼻血	4件	頭痛	52件
生物系	3件	嘔吐	42件
骨折	3件	感染症	36件
切り傷	2件	腹痛(胃炎等)	35件
擦過傷	1件	疲労	19件
皮膚科系	1件	喘息	12件
筋肉痛	1件	目眩・貧血	6件
脱臼	1件	過呼吸	5件
とげ	0件	熱中・脱水	3件
火傷	0件	食あたり(下痢等)	1件
靭帯系	0件	生理痛	1件
突き指	0件	癲癇	1件
合計	24件	乗り物酔	0件
		アレルギー系	0件
		合計	348件
		総合計	372件

研修室活動

外科系	件数	内科系	件数
捻挫打撲	11件	発熱感冒	113件
鼻血	8件	頭痛	66件
火傷	7件	腹痛(胃炎等)	46件
擦過傷	6件	疲労	27件
切り傷	5件	嘔吐	15件
とげ	2件	目眩・貧血	14件
皮膚科系	2件	過呼吸	10件
生物系	2件	生理痛	7件
骨折	2件	感染症	5件
靭帯系	1件	熱中・脱水	5件
突き指	0件	喘息	3件
筋肉痛	0件	アレルギー系	3件
脱臼	0件	乗り物酔	2件
合計	46件	食あたり(下痢等)	1件
		癲癇	1件
		合計	318件
		総合計	364件

スポーツ活動

外科系	件数	内科系	件数
捻挫打撲	71件	発熱感冒	33件
切り傷	12件	頭痛	26件
突き指	12件	腹痛(胃炎等)	13件
擦過傷	10件	熱中・脱水	13件
靭帯系	9件	疲労	9件
生物系	9件	過呼吸	7件
骨折	9件	嘔吐	6件
筋肉痛	4件	目眩・貧血	5件
鼻血	3件	喘息	3件
脱臼	2件	アレルギー系	2件
皮膚科系	1件	感染症	1件
とげ	0件	食あたり(下痢等)	1件
火傷	0件	乗り物酔	0件
合計	142件	生理痛	0件
		癲癇	0件
		合計	119件
		総合計	261件

自由時間

外科系	件数	内科系	件数
捻挫打撲	22件	発熱感冒	71件
切り傷	9件	腹痛(胃炎等)	24件
骨折	5件	嘔吐	20件
擦過傷	2件	感染症	16件
皮膚科系	2件	頭痛	14件
突き指	2件	疲労	13件
鼻血	1件	喘息	4件
生物系	1件	目眩・貧血	2件
脱臼	1件	熱中・脱水	1件
とげ	0件	食あたり(下痢等)	1件
火傷	0件	アレルギー系	1件
靭帯系	0件	癲癇	1件
筋肉痛	0件	乗り物酔	0件
合計	45件	過呼吸	0件
		生理痛	0件
		合計	168件
		総合計	213件

(2) 傷病別件数

① 外科系

施設屋内において発生した353件の外科系傷病について傷病別に分類すると、捻挫打撲が140件と全体で39.7%を占めている(図2)。次いで、切り傷が47件、火傷が30件、擦過傷が27件となっており、以上の上位4種類が全体の54.3%を占めている。

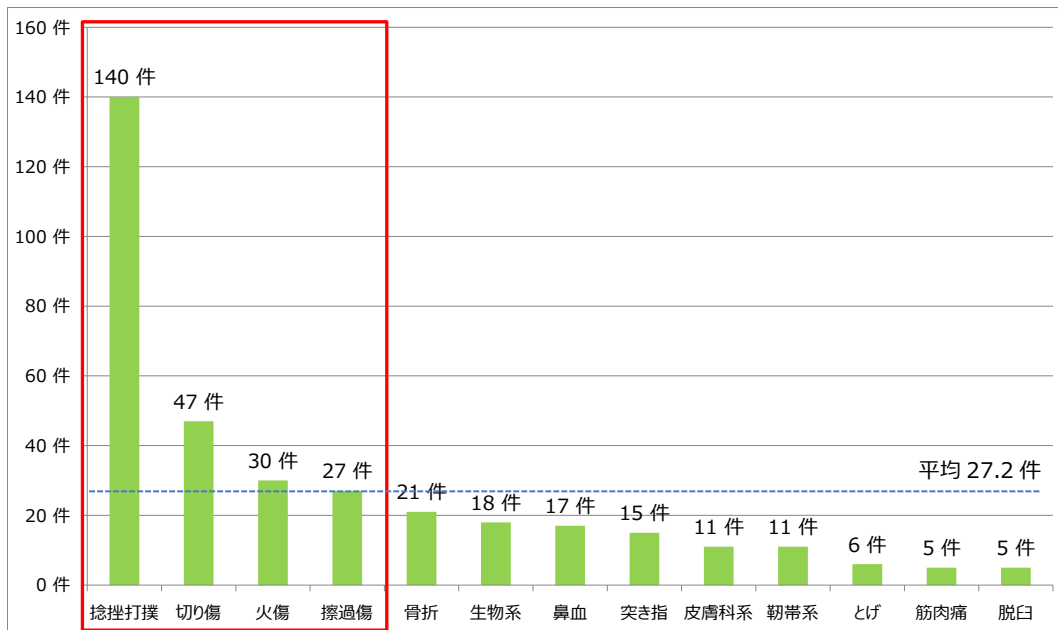


図2. 施設屋内での外科系傷病の発生件数

また、発生件数の多かった上位4種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した(図3,図4,図5,図6)。

a. 捻挫打撲

捻挫打撲が発生し易い活動内容は、スポーツ活動で71件(50.7%)と半数以上を占めている。次いで、自由時間が22件(15.7%)、研修室活動で11件(7.9%)、オリエンテーリング・ウォークラリーで9件(6.4%)となっている。

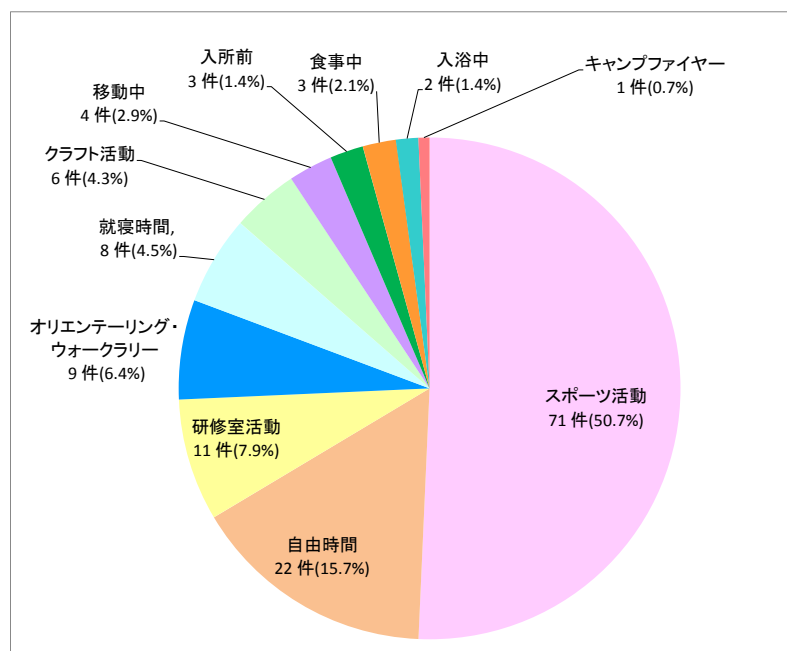


図3. 施設屋内における「捻挫打撲」の活動内容別件数

b. 切り傷

切り傷が発生しやすい活動内容は、スポーツ活動で12件（25.5%）、自由時間で9件（19.1%）、クラフト活動で8件（17.0%）、研修室活動で5件（10.6%）となっている。

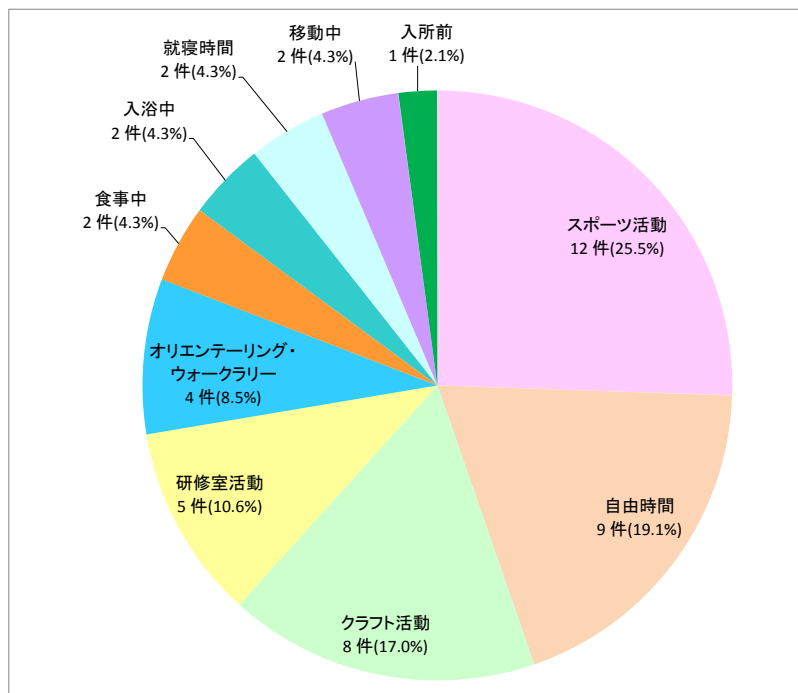


図4. 施設屋内における「切り傷」の活動内容別件数

c. 火傷

火傷が発生しやすい活動内容は、クラフト活動で16件（53.3%）と半数以上を占めている。次いで、研修室活動が7件（23.3%）、食事中が5件（16.7%）となっている。

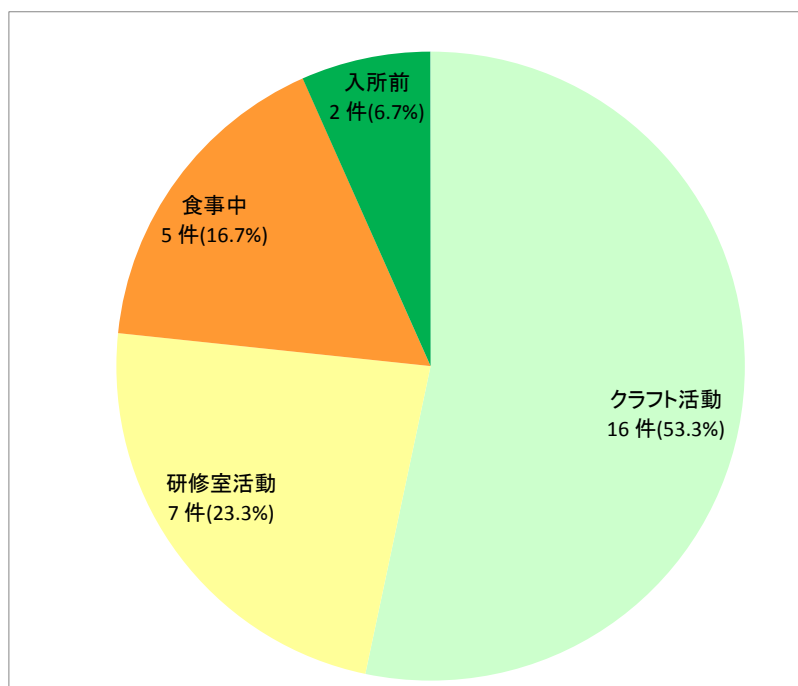
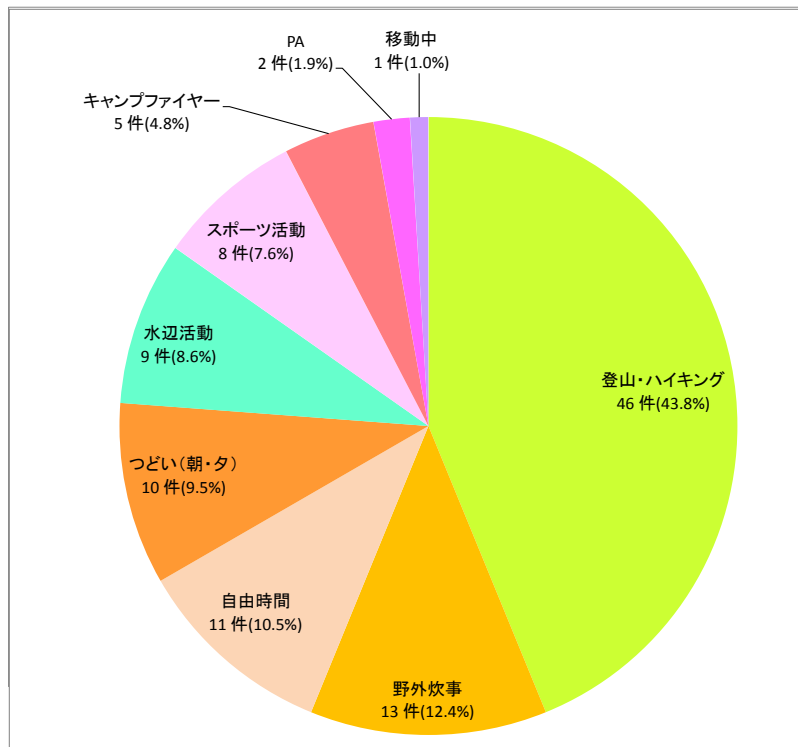


図5. 施設屋内における「火傷」の活動内容別件数

d. 擦過傷

擦過傷が発生し易い活動内容は、スポーツ活動で10件(37.0%)、研修室活動で6件(22.2%)となっており、以上2つの活動が全体の59.2%を占めている。



② 内科系

施設屋内において発生した1, 345件の内科系傷病について傷病別に分類すると、発熱感冒が475件で全体の35.3%を占めている(図7)。次いで、頭痛が205件、腹痛(胃炎等)が176件、嘔吐が142件となっており、以上の上位4種類が全体の79.9%を占めている。

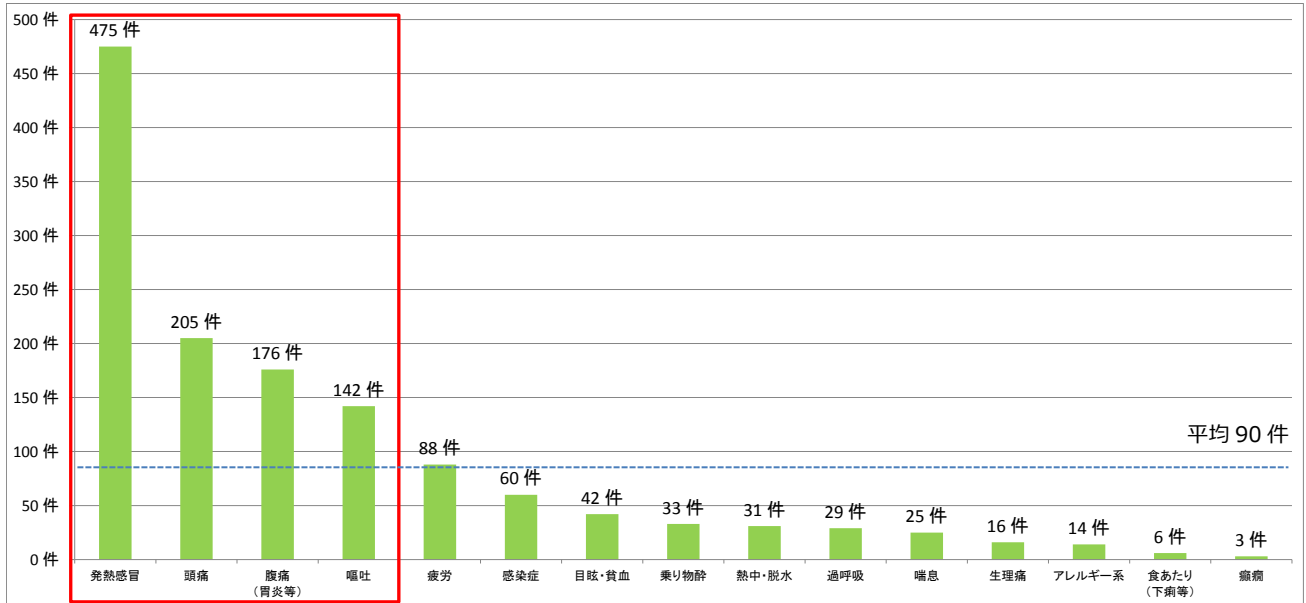


図7. 施設屋内での内科系傷病の発生件数

また、発生件数の多かった上位4種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した(図8,図9,図10,図11)。

a. 発熱感冒

発熱感冒の発生が多い活動内容は、就寝時間で135件(28.4%)、研修室活動で113件(23.8%)、自由時間で71件(14.9%)となっている。

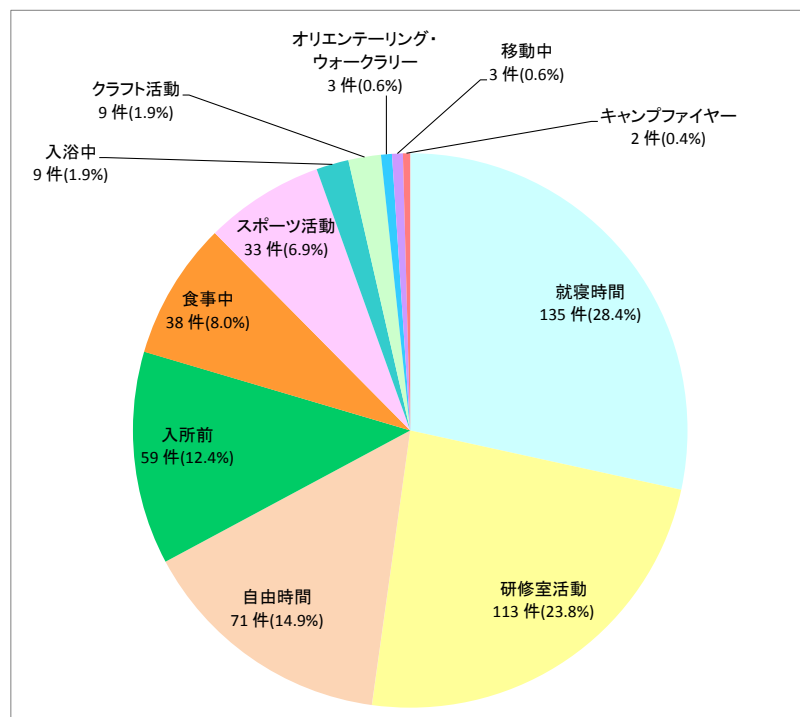


図8. 施設屋内における「発熱感冒」の活動内容別件数

b. 頭痛

頭痛の発生が多い活動内容は、研修室活動で66件（32.2%）、就寝時間で52件（25.4%）、スポーツ活動で26件（12.7%）、自由時間で14件（6.8%）となっている。

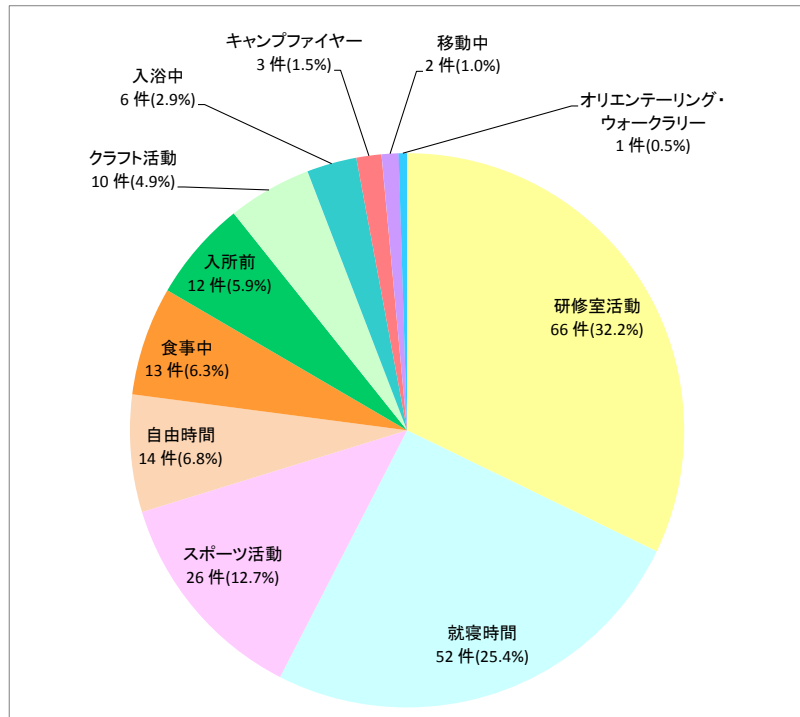


図9. 施設屋内における「頭痛」の活動内容別件数

c. 腹痛（胃炎等）

腹痛（胃炎等）の発生が多い活動内容は、研修室活動で46件（26.1%）、就寝時間で35件（19.9%）、食事中で27件（15.3%）、自由時間で24件（13.6%）となっている。

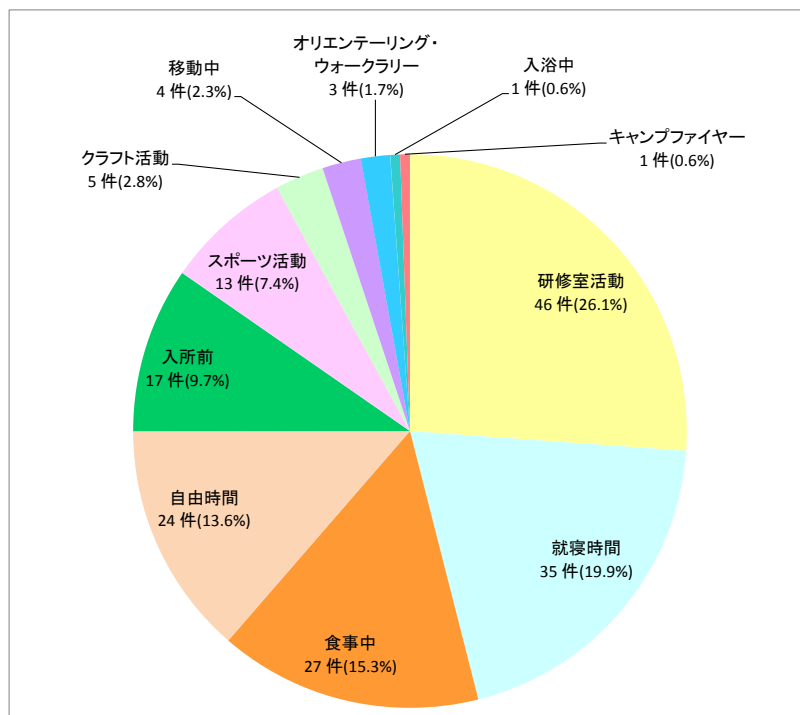


図10. 施設屋内における「腹痛（胃炎等）」の活動内容別件数

d. 嘔吐

嘔吐の発生が多い活動内容は、食事中で51件(29.5%)、就寝時間で42件(24.3%)、自由時間で20件(11.6%)、研修室活動で15件(8.7%)となっている。

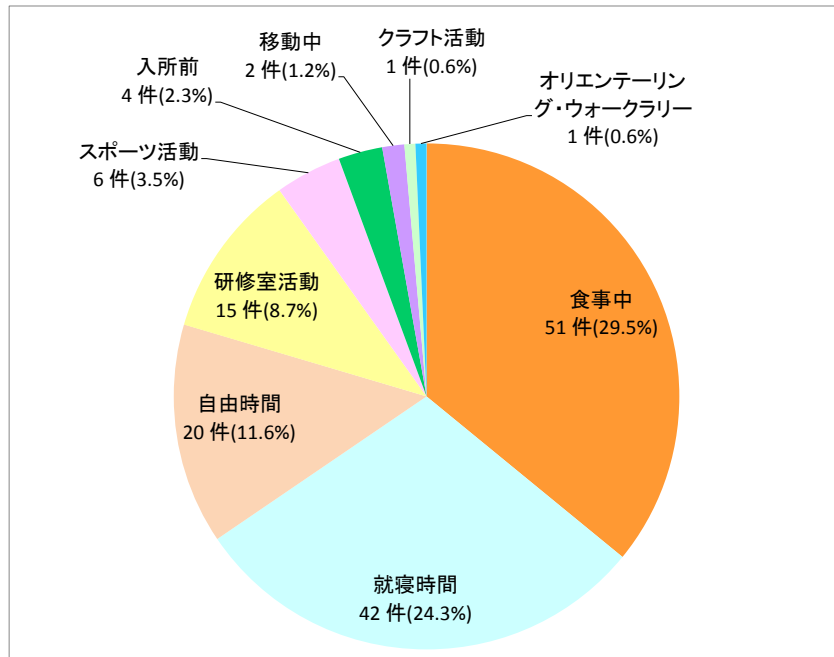


図11. 施設屋内における「嘔吐」の活動内容別件数

2. 施設屋外における傷病状況

(1) 活動内容別傷病件数

① 傷病件数の比較

平成25年度の施設屋外における傷病件数は1,467件であった。傷病と活動内容について「不明・その他」の項目を除いた1,252件の活動内容別の傷病件数では、スポーツ活動が257件(20.5%)、登山・ハイキングが209件(16.7%)、野外炊事が193件(15.4%)、オリエンテーリング・ウォークラリーが120件(9.6%)となっており、上位4種類の活動内容が、全体の62.2%を占めている(図12)。

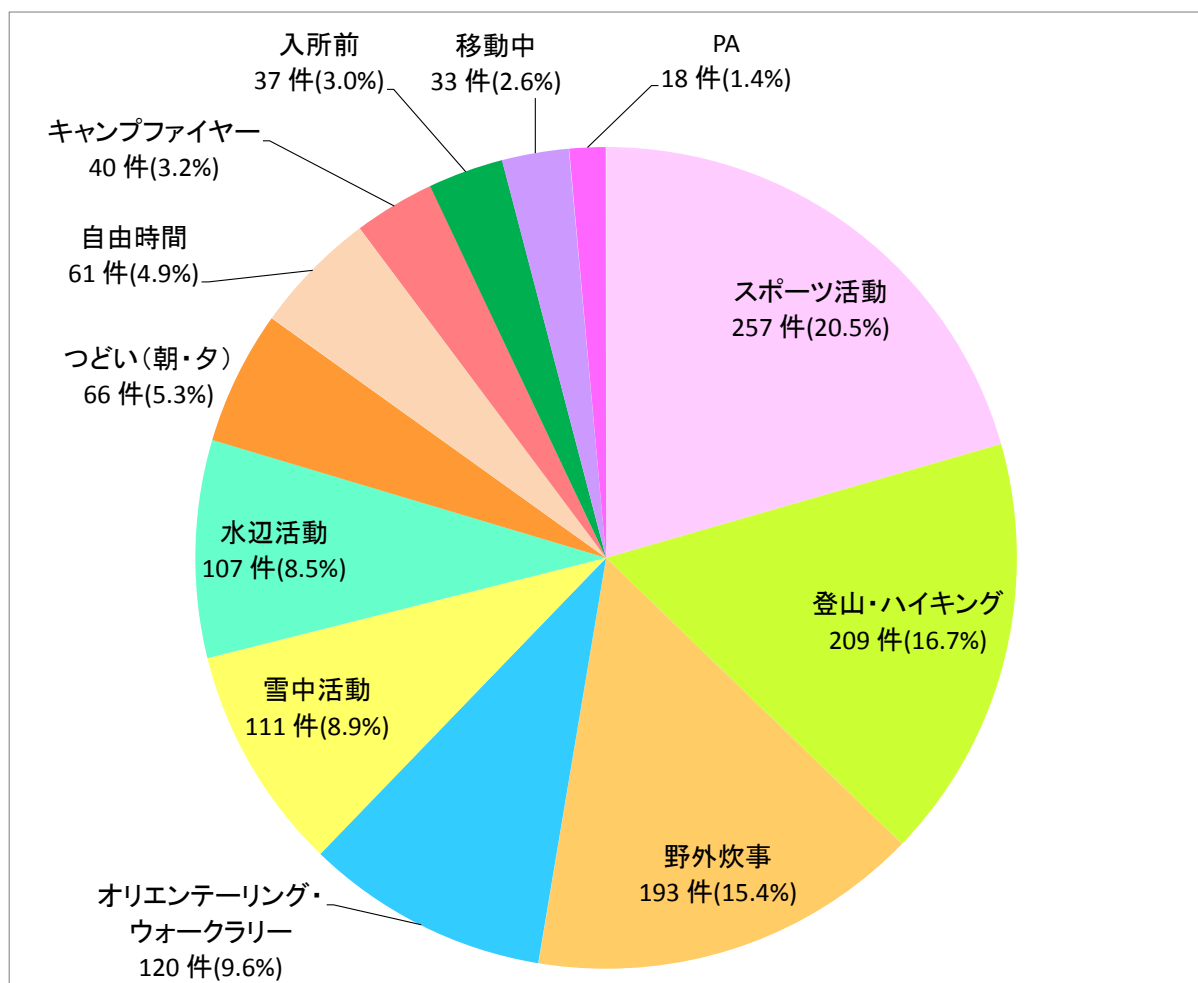


図12. 施設屋外における活動内容別傷病件数

② 主要な活動内容における傷病件数

傷病件数が多かった上位4種類の活動内容について、傷病の内訳を詳細に分類し集計した(表2)。

スポーツ活動においては、捻挫打撲、擦過傷などの外科系の傷病が多く、内科系では、発熱感冒、熱中・脱水の順に多発している。

登山・ハイキングでは、生物系(蜂刺され等)や捻挫打撲、野外炊事では火傷や切り傷の外科系の占める割合が多い。

オリエンテーリング・ウォークラリーにおいては、外科系では捻挫打撲、内科系では熱中・脱水が多く発生している。また、上位4種類全ての活動において、発熱感冒の発生件数が多い。

表2. 施設屋外での主要な活動内容における傷病件数

スポーツ活動

外科系	件数	内科系	件数
捻挫打撲	52件	発熱感冒	36件
擦過傷	31件	熱中・脱水	29件
切り傷	15件	頭痛	13件
骨折	12件	疲労	11件
突き指	9件	腹痛(胃炎等)	7件
生物系	8件	嘔吐	6件
筋肉痛	5件	目眩・貧血	4件
鼻血	4件	過呼吸	3件
脱臼	2件	アレルギー系	3件
皮膚科系	1件	喘息	2件
靭帯系	1件	感染症	1件
靭帯系	1件	食あたり(下痢等)	1件
とげ	0件	乗り物酔	0件
合計	141件	生理痛	0件
		癩癩	0件
		合計	116件
		総合計	257件

登山・ハイキング

外科系	件数	内科系	件数
生物系	46件	発熱感冒	23件
捻挫打撲	40件	頭痛	18件
擦過傷	12件	嘔吐	11件
切り傷	10件	熱中・脱水	9件
筋肉痛	6件	腹痛(胃炎等)	8件
骨折	5件	疲労	4件
とげ	4件	喘息	2件
靭帯系	4件	生理痛	2件
突き指	1件	目眩・貧血	1件
脱臼	1件	過呼吸	1件
皮膚科系	0件	アレルギー系	1件
鼻血	0件	感染症	0件
火傷	0件	乗り物酔	0件
合計	129件	食あたり(下痢等)	0件
		癩癩	0件
		合計	80件
		総合計	209件

野外炊事

外科系	件数	内科系	件数
火傷	44件	発熱感冒	31件
切り傷	36件	腹痛(胃炎等)	16件
生物系	13件	頭痛	11件
捻挫打撲	11件	疲労	6件
擦過傷	4件	熱中・脱水	6件
骨折	3件	嘔吐	3件
とげ	2件	目眩・貧血	1件
皮膚科系	1件	食あたり(下痢等)	1件
鼻血	1件	アレルギー系	1件
靭帯系	1件	癩癩	1件
突き指	0件	感染症	0件
筋肉痛	0件	乗り物酔	0件
脱臼	0件	喘息	0件
合計	116件	過呼吸	0件
		生理痛	0件
		合計	77件
		総合計	193件

オリエンテーリング・ウォークラリー

外科系	件数	内科系	件数
捻挫打撲	26件	熱中・脱水	20件
生物系	7件	発熱感冒	12件
擦過傷	5件	頭痛	7件
切り傷	4件	疲労	7件
骨折	4件	目眩・貧血	6件
とげ	3件	腹痛(胃炎等)	5件
突き指	2件	嘔吐	4件
皮膚科系	1件	アレルギー系	3件
靭帯系	1件	喘息	1件
脱臼	1件	生理痛	1件
鼻血	0件	感染症	0件
火傷	0件	乗り物酔	0件
筋肉痛	0件	食あたり(下痢等)	0件
合計	54件	過呼吸	0件
		癩癩	0件
		合計	66件
		総合計	120件

(2) 傷病別件数

① 外科系

施設屋外において発生した668件の外科系傷病について傷病別に分類すると、捻挫打撲が219件で32.8%を占めている(図13)。次いで、生物系112件、切り傷92件、擦過傷77件となっており、以上の上位4種類が全体の74.9%を占めている。

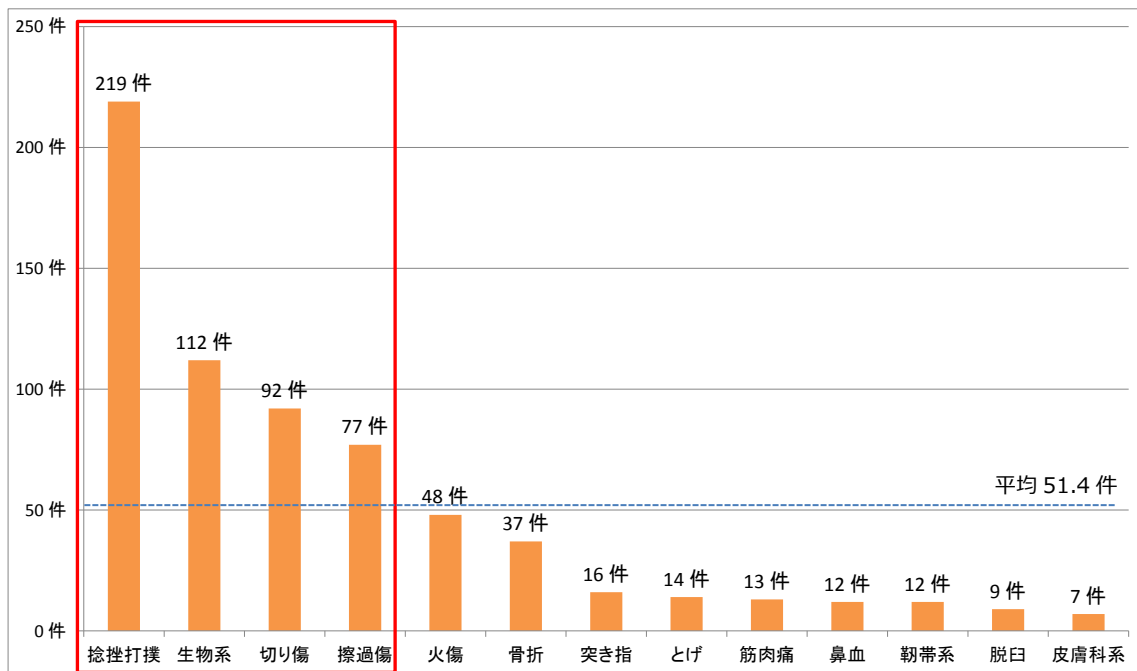


図13. 施設屋外での外科系傷病の発生件数

また、発生件数の多かった上位4種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した(図14,図15,図16,図17)。

a. 捻挫打撲

捻挫打撲が発生し易い活動内容は、スポーツ活動で52件(26.1%)、登山・ハイキングで40件(20.1%)、オリエンテーリング・ウォークラリーで39件(19.6%)となっている。

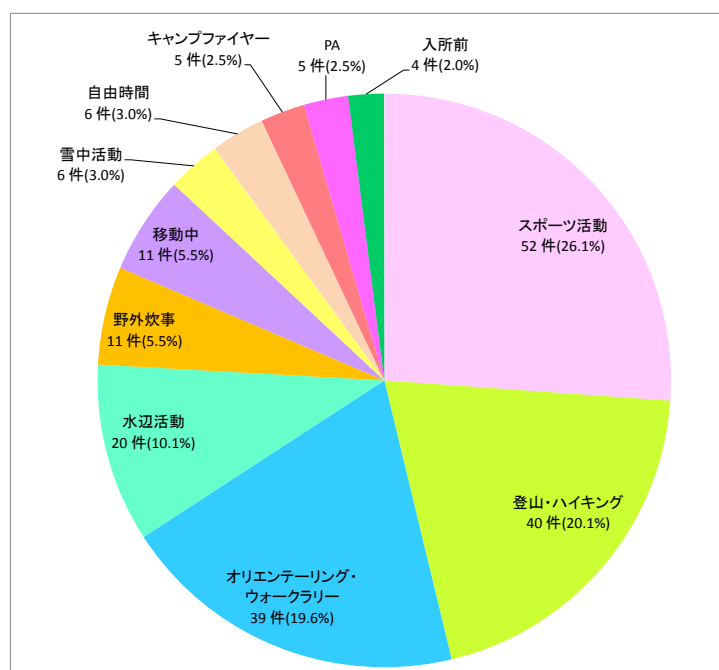


図14. 施設屋外における「捻挫打撲」の活動内容別件数

b. 生物系

生物系の傷病が発生し易い活動内容は、登山・ハイキングで46件（43.8%）、野外炊事で13件（12.4%）、自由時間で11件（10.5%）となっている。

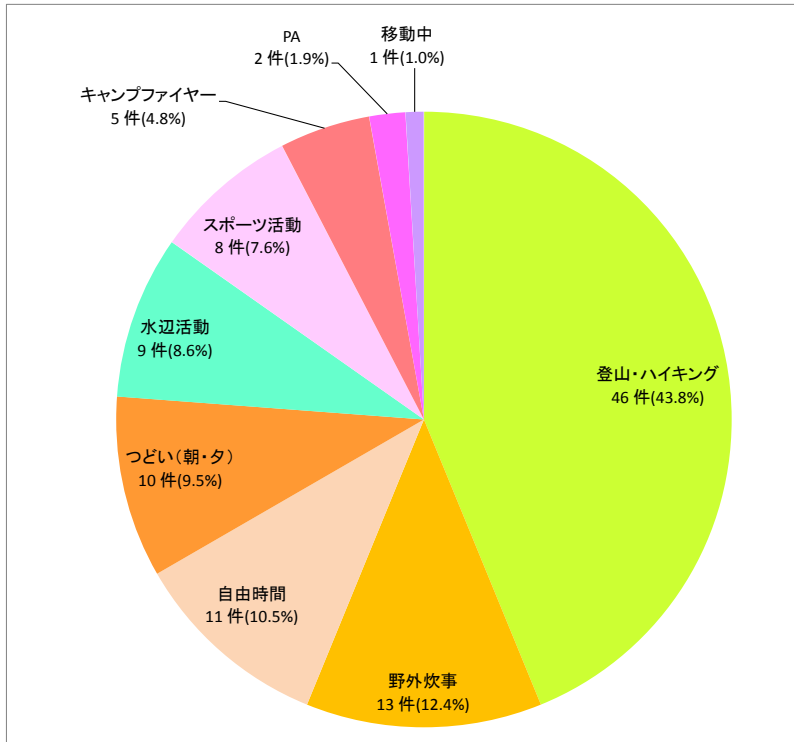


図15. 施設屋外における「生物系」の活動内容別件数

c. 切り傷

切り傷が発生し易い活動内容は、野外炊事で36件（40.9%）、スポーツ活動で15件（17.0%）、水辺活動で13件（14.8%）、登山・ハイキングで10件（11.4%）となっている。

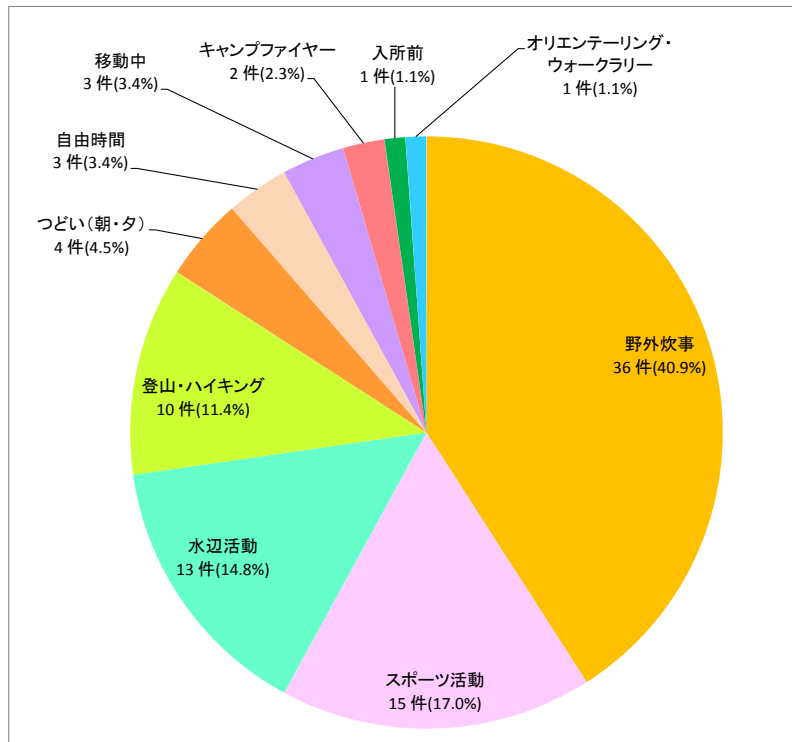


図16. 施設屋外における「切り傷」の活動内容別件数

d. 擦過傷

擦過傷が発生し易い活動内容は、スポーツ活動で31件（41.9%）、登山・ハイキングで12件（16.2%）となっている。

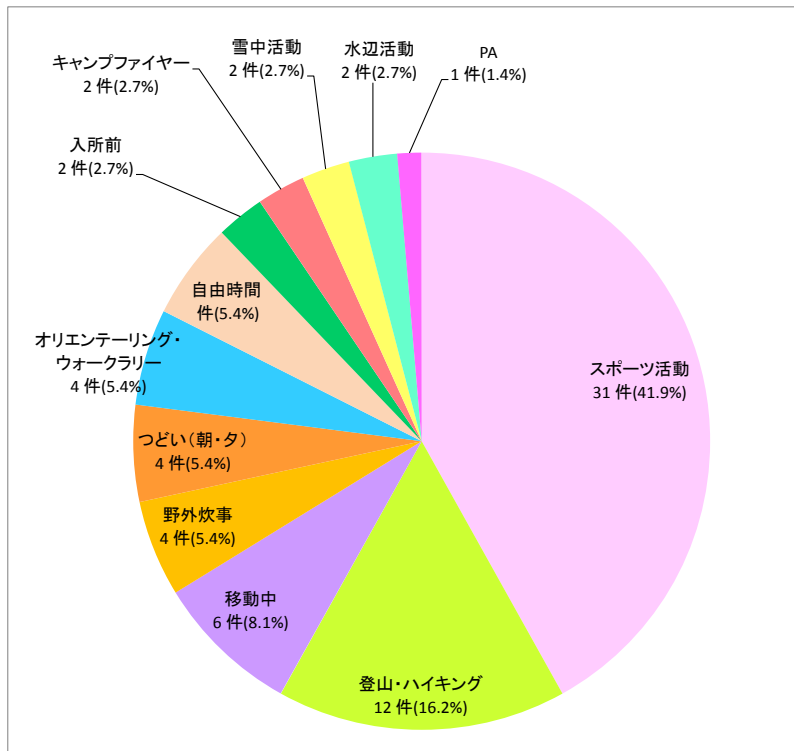


図17. 施設屋外における「擦過傷」の活動内容別件数

② 内科系

施設屋外において発生した584件の内科系傷病について傷病別に分類すると、発熱感冒が183件で全体の31.3%を占めている(図18)。次いで、熱中・脱水が86件、頭痛が69件、腹痛(胃炎等)が64件となっており、以上の上位4種類が全体の68.8%を占めている。

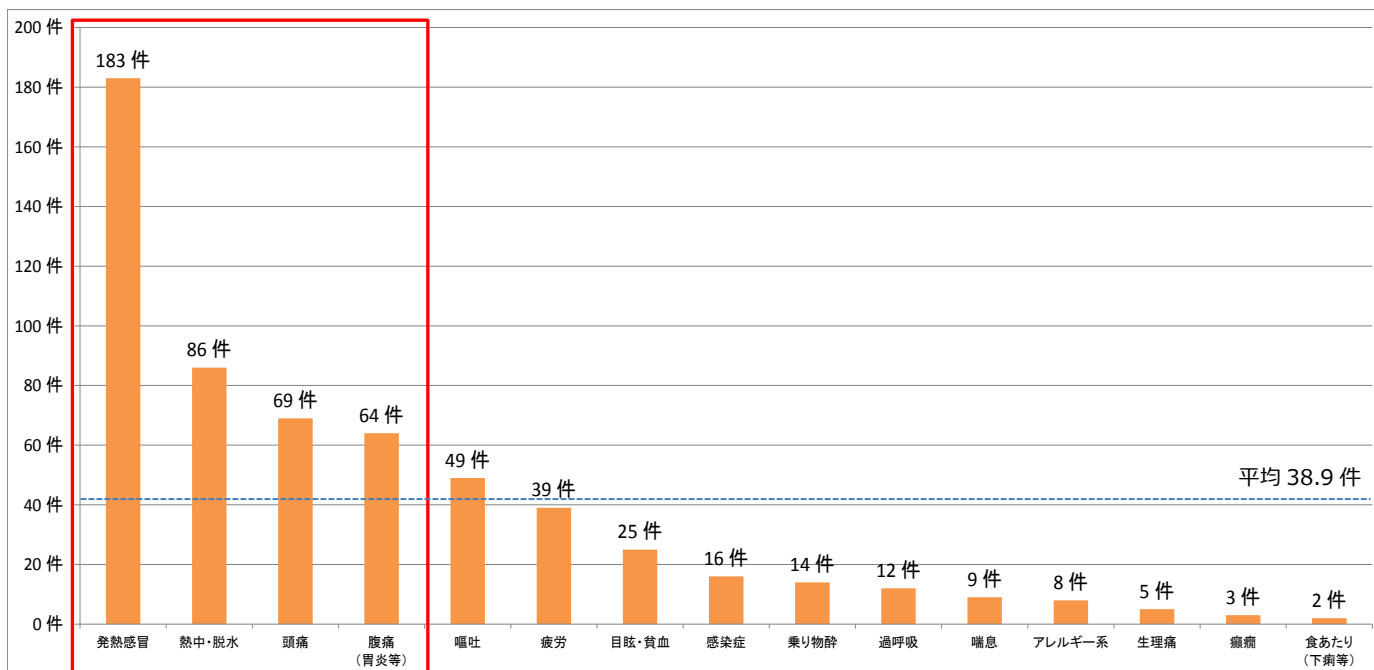


図18. 施設屋外での内科系傷病の発生件数

また、発生件数の多かった上位4種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した(図19,図20,図21,図22)。

a. 発熱感冒

発熱感冒の発生が多い活動内容は、オリエンテーリング・ウォークラリーで38件(21.1%)、スポーツ活動で36件(20.0%)、野外炊事で31件(17.2%)となっている。

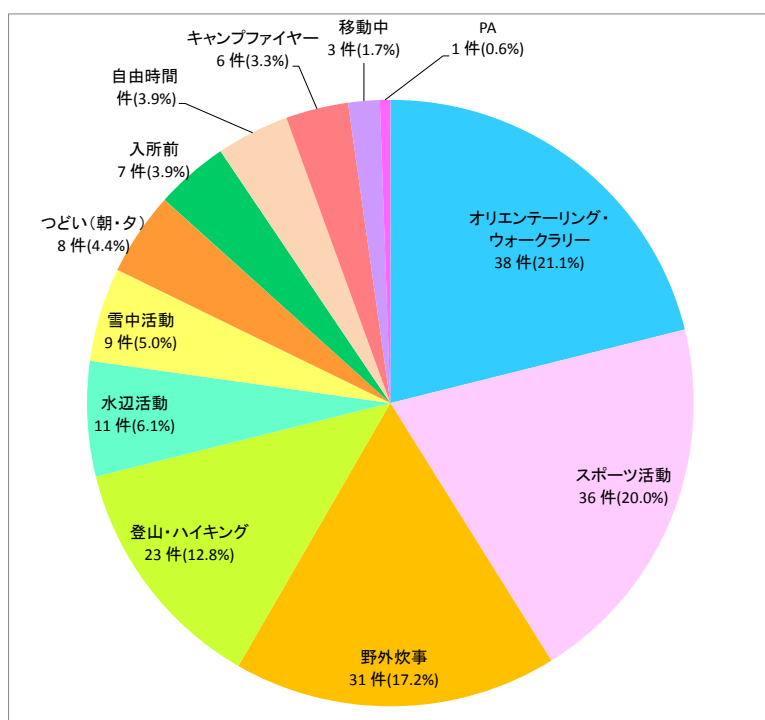


図19. 施設屋外における「発熱感冒」の活動内容別件数

b. 熱中・脱水

熱中・脱水の発生が多い活動内容は、スポーツ活動で29件（43.9%）、水辺活動で13件（19.7%）、登山・ハイキングで9件（13.6%）となっている。

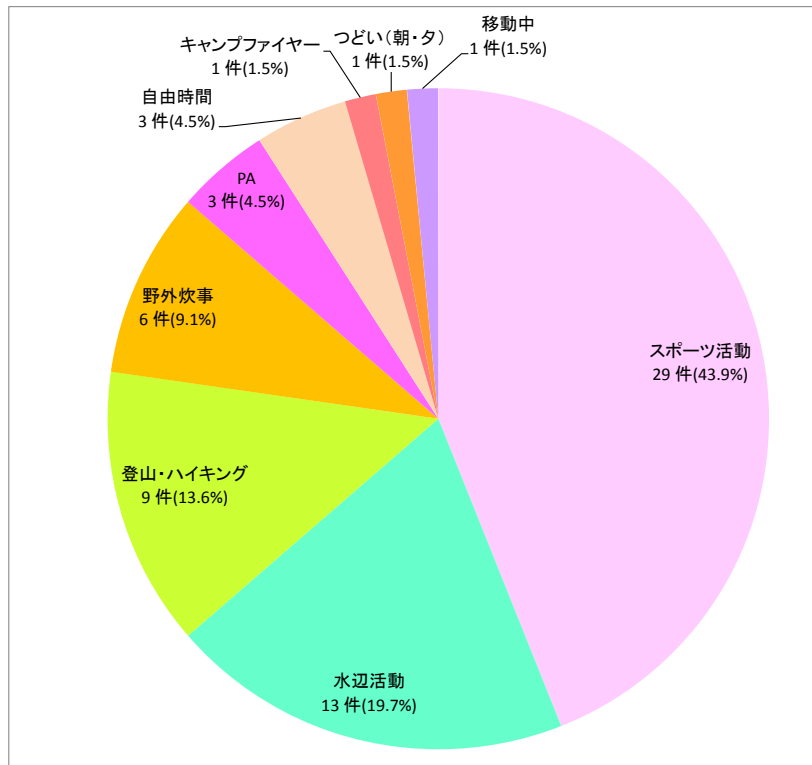


図20. 施設屋外における「熱中・脱水」の活動内容別件数

c. 頭痛

頭痛の発生が多い活動内容は、登山・ハイキングで18件（29.0%）、スポーツ活動で13件（21.0%）、野外炊事で11件（17.7%）となっている。

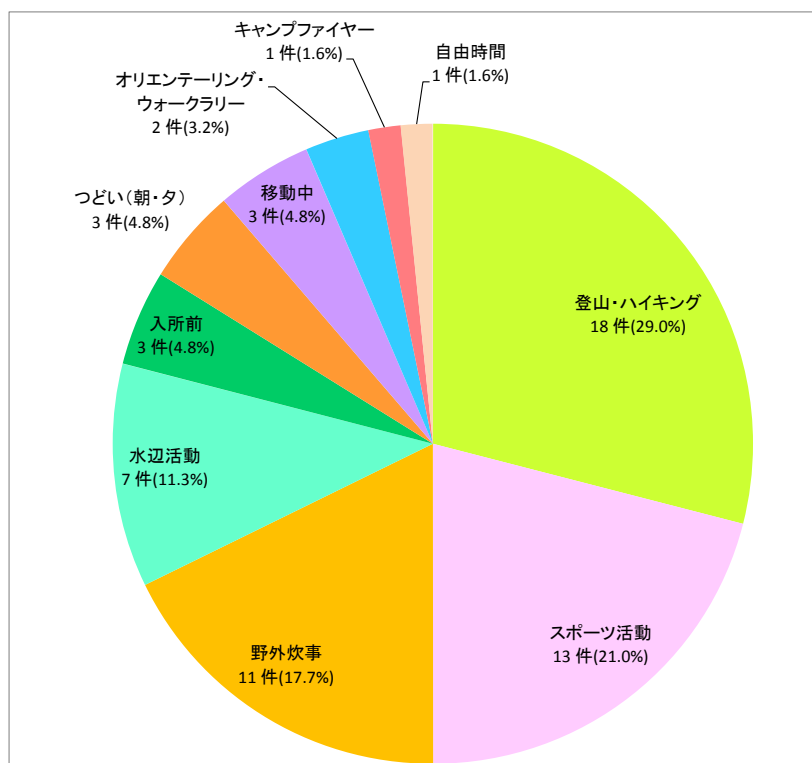


図21. 施設屋外における「頭痛」の活動内容別件数

d. 腹痛（胃炎等）

腹痛の発生が多い活動内容は、野外炊事で16件（26.2%）、登山・ハイキングで8件（13.1%）、スポーツ活動で7件（11.5%）となっている。

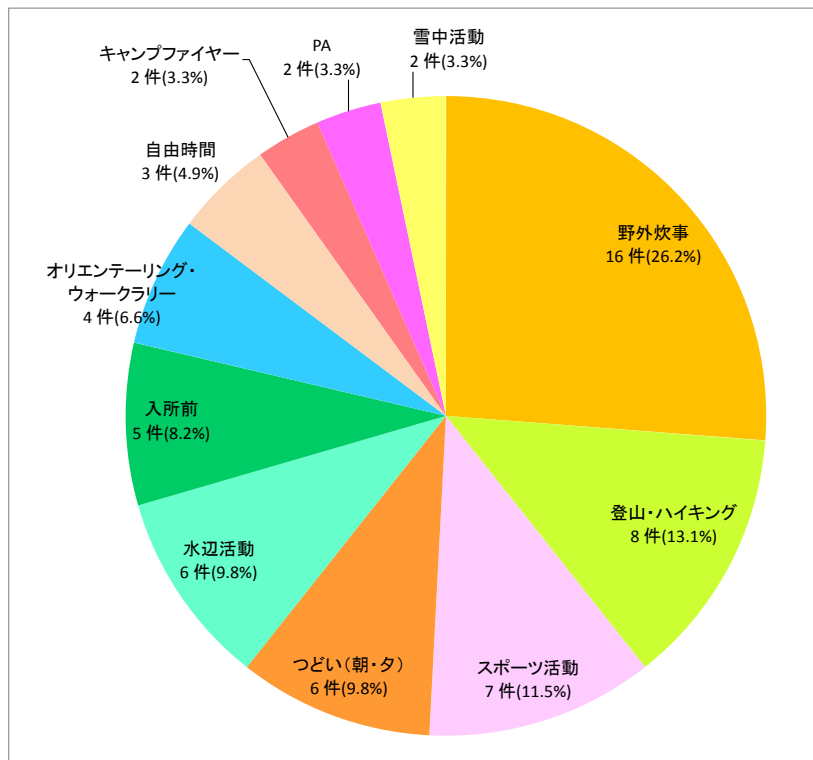


図 2 2. 施設屋外における「腹痛（胃炎等）」の活動内容別件数

Ⅱ．事例紹介

【対象年度：平成24年度、平成25年度】

1．屋内活動での事故

ベッドから転落時に後頭部を強打及び裂傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：自由時間

■場 所：宿泊室

■日 時：平成25年2月21日 16時55分

■当 該 者：小学校5年生1名（男）

■傷病種類：外科系：頭部打撲、頭部裂傷

概要	<p>宿泊室での自由時間にて2段ベッドの上段から隣の2段ベッドの上段に渡ろうとしたが、足を滑らせ転落。転落時に下の段のベッド柵に後頭部を打撲、後頭部に5cm程度の裂傷を負った。</p> <p>当施設近隣の総合病院を受診し、止血・ホチキス針縫合処置後に、精密検査をしたが、異常所見は無かった。</p> <p>帰宅後、児童自宅近くの医療機関を受診したが、異常所見は認められないため、通院終了となった。</p>
原因	<p>教員の目が届かない宿泊室であり児童のみの自由時間であったため、気分が高揚し、上記のような事故が起こったと考えられる。</p>
改善策	<p>入所式、つどい、代表者会議等で事故防止の注意喚起を実施した。</p> <p>また、入所時に代表者へ宿泊室での過去の事例をふまえて十分注意するよう説明した。</p> <p>転落防止などのポスターを宿泊室に掲示した。</p>

2段ベッドで急に立ち上がり後頭部を強打

■事業分類：研修支援

■活動内容：就寝時間

■場 所：宿泊室

■日 時：平成26年3月23日 3時00分

■当 該 者：小学校4年生1名（女）

■傷病種類：外科系：右前頭蓋底骨折

概 要	<p>2段ベッドの上段で、寝ぼけて急に立ち上がり後頭部を強打。その反動で前に倒れ、顔面を強打する。患部を冷やして様子を見たが、気分不良を訴えたため病院へ搬送する。</p> <p>精密検査の結果、右前頭蓋底骨折と診断される。視神経損傷及び髄液もれ等は見られず、視力の低下もなく現在は様子観察中である。</p>
原 因	<p>寝ぼけており、2段ベッドの上段に寝ていることを理解できない状況で、立ち上がったため。</p>
改善策	<p>入所の際に、寝ぼける癖がある児童や、夜間トイレに頻繁に行く児童に対しては、ベッドの下段もしくは和室に就寝させるよう、指導者に説明を行うようにした。</p> <p>また、頭上注意等の掲示物を作成し、利用団体に理解を深めてもらうようにした。</p>

昼食後に全身のかゆみ

■事業分類：研修支援

■活動内容：昼食

■場 所：食堂

■日 時：平成25年4月29日 13時00分

■当 該 者：中学校3年生1名（女）

■傷病種類：内科系：アレルギー系

概 要	<p>昼食後、事務室に来て全身のかゆみの症状を訴えたため、職員が診療所に連絡を取り、すぐに診療所へ行くように伝えた。</p> <p>病院で薬の吸引をしたところ、アレルギー症状は治まり、かゆみも消えた。治療後、そのまま引率者の車で帰宅した。</p>
原 因	<p>当該者は小麦アレルギーがあり、病院では昼食で食べたロールキャベツがアレルギーを引き起こした原因である可能性が高いと診断された。</p> <p>事前の調整の際に、アレルギーの有無について学校側に照会していたが、アレルギーの生徒は軽度で自己判断できる範囲であると回答していた。</p>
改善策	<p>食事のメニュー（アレルゲン情報）についてはホームページに掲載しているが、利用団体がそのページを十分に確認していない場合がある。</p> <p>利用調整の段階で行っている事前確認書類の「アレルギーについて」の欄に、食事メニュー（アレルゲン情報）を掲載している URL を追記した。</p> <p>また、利用者のアレルギー情報をより詳しく把握するために、アレルギーに関する提出シートを作成し、アレルギーがある場合はこのシートを利用団体に必ず提出してもらう。さらに食堂業者の管理栄養士と連携を図り、アレルギー情報の把握を徹底して行う。</p>

夕食後に腹痛・下痢・嘔吐の症状

■事業分類：研修支援

■活動内容：宿泊室で休憩中

■場 所：宿泊室

■日 時：平成24年12月9日 20時00分

■当 該 者：高校生2名（男）、引率・指導者1名（男）

■傷病種類：内科系：発熱、腹痛、嘔吐、下痢

概要	<p>腹痛があり、嘔吐と下痢を何度か繰り返した生徒が、夕食・お風呂が終わった時点で先生に体調不良を訴える。</p> <p>ケアルームで安静にしていたが、23時30分ごろに診療所を受診。医師の診断は胃腸炎からくる風邪だった。点滴を打った後、所に戻り安静にした。</p> <p>翌日に食欲が少し戻り、水分をこまめにとって安静にすることで少し回復し、翌々日に退所した。この生徒の他に一人の生徒、引率の先生にも同じ症状がでていた。</p>
原因	不明。
改善策	<p>(傷病発生前)</p> <p>入所した時点での利用者に対する健康チェックを、入所手続きの際に団体担当者 と綿密に行う。入所手続きを行った職員は、利用申込確認書または健康チェック表に明記し、職員全体で情報共有ができるようにする。</p> <p>(傷病発生後)</p> <p>ノロウイルス発生後の対応策について、診療所に意見を求めたうえで、ノロウイルス対応マニュアルを作成し、全職員で共有した。</p>

剣道の合同練習会で熱中症を発症

■事業分類：研修支援

■活動内容：剣道の練習

■場 所：プレイホール

■日 時：平成25年7月14日 15時00分

■当 該 者：中学校1年生1名（男）、中学校1年生1名（女）、中学校3年生1名（男）

■傷病種類：内科系：熱中症

概 要	<p>中学校と高校合わせて8校（約120名）の剣道部による合同練習会（当該生徒の学校は日帰り参加）において、プレイホールでの練習中に3名の生徒が頭痛、吐き気などの症状を訴えた。その内1名は自力歩行困難のため、車椅子で保健室に移動させた。</p> <p>保健室で2時間程度、安静にしたところ、回復した。学校の判断により、練習には戻らずに帰宅した。</p>
原 因	<p>プレイホールで部員約100名、指導者約20名が練習していたため、プレイホール内の室温が上昇したことが原因と思われる。プレイホール内の開放できる窓は全て開放していたが、換気が十分でなく、熱気がこもった状態であった。</p> <p>また、当所及び当該団体も、本件と同じ時期・参加人数での利用・練習経験がなかったことから、休憩をこまめにとるといった安全対策が十分でなかった。</p>
改善策	<p>プレイホールの換気をよくするために、宿泊棟のカビ対策用のサーキュレーターを貸し出すこととした。</p> <p>本件を具体事例として提示し、利用団体への注意喚起と安全管理の徹底を図った。</p>

椅子取りゲームでパイプ椅子に指を挟み裂傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：レクリエーション（椅子取りゲーム）

■場 所：プレイホール

■日 時：平成24年9月12日 21時16分

■当 該 者：大学1年生1名（男）

■傷病種類：外科系：切り傷

概要	<p>キャンドルセレモニー時に行った椅子取りゲームにおいて、パイプ椅子を取り合った際に座面が折りたたまれ、パイプの間に指を挟んだ。さらに椅子を取り合った相手の体重がかかったこともあり裂傷となった。</p> <p>医療機関に受診し、消毒後2針縫合後、所に戻った。</p>
原因	<p>椅子取りゲームにパイプ椅子を使用したこと。</p>
改善策	<p>パイプ椅子を椅子取りゲームなどのレクリエーションに使用させない。</p> <p>事前打合せの際に出し物の内容等を把握し、備品について危険な使い方をしないよう声かけを行う。</p>

避難はしごに上り着地の際に手首を骨折

■事業分類：教育事業

■活動内容：宿泊室で休憩中

■場 所：ボランティア棟4階

■日 時：平成25年7月23日 16時45分

■当 該 者：小学校5年生1名（男）

■傷病種類：外科系：手首骨折

概 要	ボランティア棟4階（カーペット敷き、30人利用の部屋）で休憩していた際、友達が追いかけて、それが嫌で逃げた時に、部屋の中に設置してある「避難はしご」に上った。下りる際に床面にジャンプし右手をついた時に手首をひねる状態で着地した。その後病院に連れて行き診察を受けたところ、手首を骨折していたので、保護者に来てもらい引き渡した。現在は完治している。
原 因	注意書きが不足しており、自由に「避難はしご」に立ち入ることができる状態だった。 また、どういう時に「避難はしご」を使用するのか、どういう危険があるのか等具体的な指導が不足していた。
改善策	教育事業等でボランティア棟を使用する際には、「避難はしご」について具体的な指導をするようにした。 カラーコーンを置き、「緊急時以外立ち入り禁止」の貼り紙をした。

正面玄関の路面の凍結による転倒で頸椎を損傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：移動中

■場 所：本館正面階段

■日 時：平成25年11月28日 11時40分

■当 該 者：引率・指導者1名（男）

■傷病種類：外科系：頸髄損傷

概 要	スキー部合宿での移動中に本館正面屋外階段下の路面において、凍結により転倒した。救急車の要請後、ドクターヘリで医療機関へ搬送された。 当日のみ入院し、翌日に退院したが、退院後も後遺症で手先がしびれる症状があったため現在もリハビリを継続している。
原 因	冷え込みにより凍結していた路面に降雪があり、非常に滑りやすい状況であった。
改善策	階段及び路面に凍結防止剤と砂を散布し、利用者の安全を確保した。 路面が凍結した際は、利用団体の代表者に職員から注意喚起を行うとともに、玄関に転倒注意の表示を行った。

Ⅱ．事例紹介

【対象年度：平成24年度、平成25年度】

2．屋外活動での事故

薪割り中になたで手を切る

■事業分類：研修支援

■活動内容：野外炊事

■場 所：野外炊事場

■日 時：平成25年5月26日 10時30分

■当 該 者：中学校2年生1名（男）

■傷病種類：外科系：左手甲裂創

概 要	なたを使い薪を割っている際に、薪を支えていた左手の親指付け根の甲をなたで切った。傷が大きく出血が止まらないため、救急車で搬送した。左手甲裂創と診断され、4針縫合したが、骨や神経に異常はなく、治療後、当所に帰所し、活動を続けた。現在は後遺症もなく完治していると思われる。
原 因	正しいなたの使い方について、指導者の理解が不十分であった。 また、生徒がなたを扱う際の安全管理体制も、万全ではなかった。生徒がなたの使い方に慣れていなかった。
改善策	「なたの使い方を説明したプリント（国立青少年教育振興機構ホームページ「体験・遊びナビゲーター」より抜粋）」を作成し、野外炊事のプログラム打合せ時に活動団体に配布し、十分安全に配慮して使うように注意喚起するようにした。
事 後	事故後に注意喚起を行った結果、同じような怪我をする児童、生徒はいなくなったが、2件ほど指導者が同じような怪我をしている。今後は指導者に対する注意喚起を徹底したい。

野外炊事中の火傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：野外炊事

■場 所：野外炊事場

■日 時：平成24年7月8日 17時00分

■当 該 者：小学校5年生1名（女）

■傷病種類：外科系：熱傷

概要	<p>野外炊事でカレーライスを調理中に、鍋にカレールウを入れ、蓋をしようとして左手に持っていた蓋を裏返した際に、蓋が前腕に当たった。蓋に皮膚がくっつき、直径1センチ程度皮が剥けた。</p> <p>近隣の診療所を受診し、左前腕Ⅱ度熱傷と診断され、治療を受けた。受診後は、活動に支障が無いと判断し、活動に戻った。</p>
原因	<p>七分袖の上着を着用し、前腕が露出していた。また、軍手を着用していたが、蓋が冷めないうちに触ってしまった。</p>
改善策	<p>事前打合せ時に服装や用具の取扱い、事故防止について十分に説明を行う。</p> <p>事前打合せの内容について、引率者間の共通理解を図ってもらうようお願いする。</p> <p>児童への事前指導、保護者への服装や持ち物等の連絡について、徹底をお願いする。</p>

フィールドアスレチックでの活動中に熱中症を発症

■事業分類：研修支援

■活動内容：フィールドアスレチック

■場 所：フィールドアスレチック場

■日 時：平成24年7月27日 12時30分

■当 該 者：中学校1年生1名（女）

■傷病種類：内科系：熱中症

概要	フィールドアスレチックでグループリーダーとして活動していたが、昼食のため宿泊棟に戻った際に、引率者に体調不良を訴えた。すでに、脱水状態となっており、自らは水分摂取困難であったため、病院に救急搬送し治療後帰宅した。
原因	年下の子供の面倒をみていたため、自分が水筒を忘れ、水分補給できない状態であることを気にせず活動していた。 利用団体の引率者もグループリーダーに対して、水分補給等の配慮ができていなかった。
改善策	熱中症対応についての職員研修を実施した。 利用団体には以前より感染症や熱中症についての諸注意等を書面で喚起していたが、イラストや画像を入れ、内容をわかりやすく改善した。 また、利用者玄関や宿泊棟等にもポスター掲示により熱中症の注意喚起をした。事前打合せ会や入所手続きに加え、利用者が一同に集まる朝・夕のつどいなどでも注意喚起を実施した。
事後	各団体が熱中症対策に注意を払い、十分に水分補給するようになったため、熱中症事故の報告はなくなった。

企業研修の村内ウォークラリーで体調を崩す人が続出

■事業分類：研修支援

■活動内容：村内ウォークラリー

■場 所：利用団体独自でコースを作成

■日 時：平成24年4月5日 16時30分～20時頃

■当 該 者：企業研修の参加者41名（男）、97名（女）

■傷病種類：外科系：捻挫打撲、腰痛
内科系：疲労、脱水、過換気

概 要	<p>企業研修の最終日に行われた30kmの村内ウォークラリーにおいて、無理をして体調を崩す参加者が続出した。</p> <p>体調不良の内容は、脱水が4名、過換気が3名、腰痛が2名、その他体調不良が5名であり、その内1名は病院に救急搬送され治療後所に戻り翌日退所した。</p>
原 因	<p>ウォークラリーのコースを昨年利用のコースと同じコースで設定し、今回の利用時には下見をしていなかったため、台風の影響で通れない箇所が把握されていなかった。</p> <p>事前にコース地図の提出時期が遅く、所からのアドバイスにより直前にコースを変更したが、当初より歩行距離が長くなってしまった。</p> <p>時間を競うプログラムであったことから、水分補給もできないほど消耗しているにもかかわらず、体調管理が疎かになってしまった。</p> <p>また、企業側の安全管理体制があまかった。</p>
改善策	<p>参加者の体力、体調を考慮したコース設定を指導する。事前にコースの下見の実施と地図の提出を徹底する。脱水になる前の早目の水分補給について、職員間で説明・指導の徹底を周知した。</p> <p>また、同様の企業研修では、参加者に対するこまめな体調確認とウォークラリー中に必要な水分補給用のスポーツドリンク等を持参させることを徹底した。</p>

源流探検コースで蜂刺され

■事業分類：研修支援

■活動内容：源流探検

■場 所：源流探検コース

■日 時：平成24年8月6日 11時30分

■当 該 者：小学校1年生1名（男）、引率・指導者2名（男）

■傷病種類：外科系：蜂に刺される

概要	<p>参加者が尿意を催し、コースを外れて茂みに入ろうとした際にハチに刺された。 参加児童1名は右目横と下の2箇所、引率者Aは左手中指、引率者Bは右手2箇所を刺された。</p> <p>引率者については毒抜き後、患部を冷やす。参加児童については、毒抜き後、患部を冷やし、念のため医療機関に受診した。治療後、所に戻り活動を続けた。</p> <p>事故後に、現場付近にハチの巣がないか徹底的に点検し、殺虫剤を散布した。</p>
原因	<p>探検コースを外れ、茂みに入ろうとしたこと。</p>
改善策	<p>日常点検の際にハチやハチの巣がないかも含めて点検を行うように、再度職員に徹底を促す。</p> <p>事前打合せや受付時に、活動中に見かけたハチやハチの巣の情報提供をお願いする。</p>

オリエンテーリング中にマウンテンバイクで転倒

■事業分類：研修支援

■活動内容：オリエンテーリング

■場 所：施設内つどいの広場付近の道路

■日 時：平成25年5月31日 10時25分

■当 該 者：引率・指導者1名（男）

■傷病種類：外科系：顔面、肩、腕、ひざの擦り傷、耳の裂傷、肋骨の骨折

概 要	施設貸出のマウンテンバイクに乗り巡回中、転倒し、頭から落下した際に、肋骨の骨折と側頭部に大きな裂傷、肩、腕、ひざに擦り傷を負った。 意識が朦朧としていたため救急車で病院に搬送したが、その後意識が回復したため、怪我の治療を受け、入院の必要もなくそのまま帰宅した。現在は完治している。
原 因	警察による現場検証の結果、マウンテンバイクには整備の不備はなく、コースの整備状況も問題無かったため、運転者の操作ミスによるものと判断された。 また、今回は敷地外に出るプログラムとしてのマウンテンバイクの貸出しではなく、引率者の巡回用の貸出しだったため、ヘルメットの着用を強制していなかったことも大きな怪我に繋がった要因として考えられる。
改善策	事故後に、マウンテンバイクを借りる全ての利用者にヘルメットの着用を義務化した。

海での活動中にプランクトンに刺される

■事業分類：研修支援

■活動内容：海での独自プログラム（ライフセービングの資格講習）

■場 所：海洋研修場

■日 時：平成25年7月2日 13時から16時の間

■当 該 者：大学生4名（男）

■傷病種類：外科系：ゾエア（微小浮遊生物【プランクトン】で甲殻類）に刺された

概 要	海中でのトレーニング中、身体にチクッとした痛みを感じたがそのまま研修を継続した。本館施設に戻ってから、刺された部位を確認すると赤みがかっていた。まだ少し痛みを感じたので刺された部位をアイシングした。
原 因	長袖のラッシュガードと水着（短パン）という格好で研修をしていたため、肌が露出している部分があった。
改善策	海洋研修中はできるだけ肌を露出しないよう、長袖のラッシュガードとスパッツの着用、または全身を覆うウエットスーツの着用を呼びかける。 痛みがひどい場合は、すぐに海から陸にあがり、休憩するように指導する。 入水前に安全監視員によるエリア内の確認と、オリエンテーションで利用者へ周知を行う。

転倒したそりに衝突し眼球を打撲

■事業分類：教育事業

■活動内容：そり滑り

■場 所：営火場の広場

■日 時：平成24年12月2日 9時45分

■当 該 者：小学校3年生1名（男）

■傷病種類：外科系：右上眼瞼裂傷、右眼球打撲

概 要	<p>営火場の広場にてそり滑りを行っている際に、前方を滑っていた児童が転倒し、後方を滑っていた児童が、そりへ衝突した。右上眼瞼の裂傷及び右眼球打撲の診断を受けた。</p> <p>事故後に当施設付近の総合病院を受診した。止血処置後に、視力、眼底検査をしたが「異常所見無し」と診断された。</p> <p>後日、児童自宅近くの医療機関を受診し、上眼瞼の裂傷、視力異常はみられないため、通院終了となった。</p>
原 因	<p>前方を滑っていた児童と、後方を滑り降りた児童との距離間が短く、滑り始める際の声がけと安全確認が不十分であったためと考えられる。</p>
改善策	<p>そり滑りの際は、前方と後方との十分な距離を確保し、次に滑り降りる児童の安全が確保されてから、滑り降りる合図をだすというルールを徹底する。</p> <p>指導者または職員、ボランティアスタッフ間だけでなく、参加児童へもルールの徹底を図る。</p>

オリエンテーリング中での迷子

■事業分類：研修支援

■活動内容：オリエンテーリング

■場 所：オリエンテーリングのコース内

■日 時：平成25年10月1日 15時

■当 該 者：特別支援学級 小学校5年生1名（男）

概 要	<p>特別支援学級の児童5名と教員2名でオリエンテーリング（実際には、いくつかのポストに行く程度）を実施したが、児童1名が動けなくなり、教員1名が引率して施設に戻った。</p> <p>残りの児童4名と教員1名でオリエンテーリングを続けたが、児童1名が急に飛び出し、引率していた教員の目の届かない所に行ってしまった。連絡を受けた他教員が捜索を開始したが児童は見付からなかった。</p> <p>施設は上記の連絡を副校長から受け、施設職員6名で捜索を開始、警察に電話連絡、帰宅した職員3名も電話連絡し捜索を開始。</p> <p>警察官5名と隣接施設職員2名、小学校教員9名も捜索に加わり、発生から約3時間後、オリエンテーリングのコース内にある橋の下でうずくまっている児童を警察官が発見した。</p> <p>発見時、児童は沢を下ったため衣服が濡れていたが、外傷は無く、体調不良も訴えていなかったため、着替え後に夕食をとって母親と帰宅した。</p>
原 因	<p>児童1名が動けなくなった際に、その他の児童もオリエンテーリングを続けず一緒に施設に戻る必要があった。教員1名が不在となったため、残り4名の児童を教員1名で引率しなければならなくなり、不測の事態に対応が出来なかった。</p>
改善策	<p>捜査にあたっては、十分な装備（懐中電灯、防寒着）を取らせること、捜索可能な職員を一堂に集めた上で、捜索方法（範囲を含め）を決定し、捜索を開始する。</p> <p>特別な配慮を必要とする参加者がいる場合は、団体担当者と「誰が指導するか」「どこで」「何をするか」を確認するとともに、事故事例を提示しながら、指導上の注意及び所の対応策を伝える。</p>

Ⅲ. 資料

平成25年度 傷病発生状況一覧表【屋内・外科系】

【屋内】 宿泊・日帰り利用 (人)	外科系													【外科系】 小計	
	擦過傷	切り傷	とげ	皮膚科系	鼻血	火傷	靭帯系	捻挫 打撲	生物系	突き指	骨折	筋肉痛	脱臼		その他
入所前	3	1	0	4	0	2	0	3	0	0	0	0	0	2	15
食事中	0	2	1	0	0	5	0	3	0	0	0	0	0	1	12
入浴中	3	2	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	10
就寝時間	1	2	0	1	4	0	0	8	3	0	3	1	1	2	26
研修室活動	6	5	2	2	8	7	1	11	2	0	2	0	0	6	52
クラフト活動	0	8	2	0	0	16	0	6	0	0	1	0	0	3	36
スポーツ活動	10	12	0	1	3	0	9	71	9	12	9	4	2	15	157
キャンプファイヤー	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
オリエンテーリング・ ウォークラリー	0	4	0	0	0	0	0	9	1	1	0	0	0	1	16
自由時間	2	9	0	2	1	0	0	22	1	2	5	0	1	9	54
移動中	2	2	1	0	0	0	1	4	0	0	1	0	0	1	12
不明・その他	12	20	0	5	3	2	2	37	8	0	3	3	1	33	129
【屋内】合計	39	67	6	16	20	32	13	177	26	15	24	8	6	73	522

平成25年度 傷病発生状況一覧表【屋内・内科系】

【屋内】 宿泊・日帰り利用 (人)	内科系														【内科系】 小計	【外科系】 内科系 合計		
	発熱 感冒	頭痛	感染症	腹痛 (胃炎等)	乗り物酔	嘔吐	目眩 貧血	疲労	熱中 脱水	食あたり (下痢等)	喘息	過呼吸	生理痛	アレル ギー系			癩癩	その他
入所前	59	12	0	17	29	4	3	3	3	0	1	3	5	2	0	5	146	161
食事中	38	13	2	27	1	51	6	6	2	2	1	1	2	1	0	14	167	179
入浴中	9	6	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	3	0	2	24	34
就寝時間	135	52	36	35	0	42	6	19	3	1	12	5	1	0	1	24	372	398
研修室活動	113	66	5	46	2	15	14	27	5	1	3	10	7	3	1	23	341	393
クラブ活動	9	10	0	5	0	1	4	3	4	0	0	1	0	1	0	3	41	77
スポーツ活動	33	26	1	13	0	6	5	9	13	1	3	7	0	2	0	7	126	283
キャンプファイヤー	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	8	11
オリエンテーリング・ ウォークラリー	3	1	0	3	0	1	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	12	28
自由時間	71	14	16	24	0	20	2	13	1	1	4	0	0	1	1	9	177	231
移動中	3	2	0	4	1	2	0	5	0	0	0	1	0	0	0	1	19	31
不明・その他	164	53	16	32	0	31	21	10	11	1	3	6	8	3	2	62	423	552
【屋内】合計	639	258	76	208	33	173	63	98	42	7	28	35	24	17	5	150	1,856	2,378

平成25年度 傷病発生状況一覧表【屋外・外科系】

【屋外】 宿泊・日帰り利用 (人)	外科系													【外科系】 小計	
	擦過傷	切り傷	とげ	皮膚科系	鼻血	火傷	靭帯系	捻挫打撲	生物系	突き指	骨折	筋肉痛	脱臼		その他
入所前	2	1	0	1	0	0	1	4	0	0	0	1	1	3	14
登山・ハイキング	12	10	4	0	0	0	4	40	46	1	5	6	1	2	131
キャンプファイヤー	2	2	0	1	1	1	0	5	5	1	4	0	0	2	24
野外炊事	4	36	2	1	1	44	1	11	13	0	3	0	0	2	118
PA	1	0	0	0	0	0	0	5	2	1	0	0	0	1	10
スポーツ活動	31	15	0	1	4	1	1	52	8	9	12	5	2	12	153
つどい(朝・夕)	4	4	0	0	1	0	0	0	10	1	0	0	0	0	20
雪中活動	4	1	0	1	3	0	1	39	0	1	6	0	1	1	58
水辺活動	2	13	3	0	0	2	1	20	9	0	1	1	1	2	55
オリエンテーリング・ウォークラリー	5	4	3	1	0	0	1	26	7	2	4	0	1	6	60
自由時間	4	3	2	1	2	0	0	6	11	0	2	0	1	0	32
移動中	6	3	0	0	0	0	2	11	1	0	0	0	1	0	24
不明・その他	22	8	1	3	1	1	1	12	12	0	4	0	0	3	68
屋外合計	99	100	15	10	13	49	13	231	124	16	41	13	9	34	767
【屋内・屋外】 合計	138	167	21	26	33	81	26	408	150	31	65	21	15	107	1,289

平成25年度 傷病発生状況一覧表【屋外・内科系】

【屋外】 宿泊・日帰り利用 (人)	内科系														【内科系】 小計	【外科系】 内科系 合計		
	発熱 感冒	頭痛	感染症	腹痛 (胃炎等)	乗り物酔	嘔吐	目眩 貧血	疲労	熱中 脱水	食あたり (下痢等)	喘息	過呼吸	生理痛	アレルギー系			癩癩	その他
入所前	7	3	2	5	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	28	42
登山・ハイキング	23	18	0	8	0	11	1	4	9	0	2	1	2	1	0	5	85	216
キャンプファイヤー	6	1	0	2	0	5	1	1	1	0	1	0	0	0	0	2	20	44
野外炊事	31	11	0	16	0	3	1	6	6	1	0	0	0	1	1	4	81	199
PA	1	0	0	2	0	0	1	0	3	0	1	1	0	0	0	1	10	20
スポーツ活動	36	13	1	7	0	6	4	11	29	1	2	3	0	3	0	9	125	278
つどい(朝・夕)	8	3	0	6	0	10	9	5	1	0	0	2	1	0	1	6	52	72
雪中活動	38	2	8	4	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	55	113
水辺活動	11	7	0	6	7	2	1	2	13	0	2	1	1	0	1	7	61	116
オリエンテーリング・ ウォークラリー	12	7	0	5	0	4	6	7	20	0	1	0	1	3	0	3	69	129
自由時間	7	1	5	3	0	4	1	3	3	0	0	2	0	0	0	2	31	63
移動中	3	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	9	33
不明・その他	22	8	3	6	0	4	4	4	6	0	1	1	0	1	0	14	74	142
屋外合計	205	77	19	70	14	53	29	43	92	2	10	13	5	9	3	56	700	1,467
【屋内・屋外】 合計	844	335	95	278	47	226	92	141	134	9	38	48	29	26	8	206	2,556	3,845

事故事例集

平成27年1月

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 教育事業部 企画課

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

TEL 03-6407-7721

FAX 03-6407-7699

H P <http://www.niye.go.jp/>